

## 新年挨拶

平成28年の仕事始めにあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

職員の皆さま あけましておめでとうございます。皆様におかれましては輝かしい新年をお迎えのことと思います。2016年が皆様にとりまして倅多き1年でありますよう願うばかりでございます。どうか本年も皆様のお力添えにより明和町政が一步、一步、前に進んで行きますようよろしく願いをいたします。

昨年は千江田・梅島・佐貫3村が合併し明和発祥から60年の節目の年、そしてさらなる飛躍の年として、明和町通過国道122号バイパス工事、川俣駅舎橋上化と周辺整備工事、凸版印刷(株)群馬センター工場のグランドオープン、ゴミ最終処分場工事着工、凸版独身寮完成、スーパーケンゾー明和店工事着工などを通じて、町の存在感を高めた年となりました。一方で、地球環境規模の異常気象による災害が各地で頻発し、明和町も例外なく備えだけ

は万全にしなければならないと再確認  
させられた年でもありました。

本年は、「安全・安心のまちづくり」  
の一環として防災無線による屋外放送  
を整備、いざという場合の避難所の見  
直しを行い、町民の皆様方の生命を守  
っていく仕組みの再構築をいたします。

また、高齢者の憩いと健康増進の場、  
放課後の学童保育の場、乳幼児の遊び  
や保護者の子育て・交流の場、町民の  
皆様の学習・発表の場など、多世代の

人が集う多機能・多目的な施設を東西に建設していきたいと考えています。子供達にシルバー世代の方々から知恵や経験を伝授する「プラチナキャリア教育」の実践や、地域の連携による見守り活動、将来的には医療や介護の相談場所の機能を持たせるなど、これらを有機的に展開させることにより、乳幼児から高齢者までの世代を越えた交流の場として、2025年問題に対する取り組みとして広がりある地域コミュニティの活性化を図っていくことを目指します。これにより医療費・介護

費の抑制につながれば一石二鳥です

環境行政では、館林市・板倉町との共同によるゴミ処理を実現し、より一層のゴミ処理の効率化を図ってまいります。

また、上水道事業では太田市、みどり市、館林市、邑楽郡5町による水道事業を合併し経営の統合による効率化を進めてまいります。

また今年は、大輪西工業団地の造成が始まりますが、大輪東工業団地にも

手を付けていきます。大輪東が買収出来たら、今度は東北道東側にも手を付けてまいります。

さて、明和町は今、どういう状況でしょうか？

平成元年頃から臨時財政対策債に手を付け始め、この27年間で積みあがった臨時財政対策債・減収補てん債は何と43億円です。臨財債は元利償還金を翌年の地方交付税にプラスして翌年の地方交付税で補てんされるものですが、翌年になると地方交付税の100%の現金交付なしでまた3分の1と

かを臨財債と言う証書でごまかし、積みあがった臨時財政対策債・減収補てん債は何と43億円であります。町の税収は18億円余りですから、町民の皆様へのサービスを落とさずに、皆様の給料を減らさずに臨財債を減らすためには、税収の大幅アップを図らねばなりません。今、一般会計の債務だけで50億を超えています。本年3月に減債基金を取り崩して利子の高い7億円返しますから、少し減りますが依然として借金財政は続きます。下水道にしても45億の債務を抱えています。

下水道は町民の皆様が払う使用料金では借金の利子も払えません。毎年、一般会計から数億円繰り入れて返済しています。こういう状態の町をどうするか？

これから同じ人員で多くの仕事をせねばなりません。管理職も試験制度で年功序列を排除して行きます。出来る人間が2倍・3倍の仕事をこなさなければ明和町はやっていけない時代に入ります。まさに今年には明和町新時代の幕開けでございます。今までの、やって怒られるなら、やらない方が良くいと



いう考えは捨ててください。これからはやった分ボーナスと給与に跳ね返ってまいります。

また、町民の皆様が役場に来ると、役場は暇そうとか、ダラダラしているとか批判を受ける場合が多いようです。町民の皆様が見えたら、「元気にこんにちわ、どんな御用でしょうか？」と課員がみんなで起立して笑顔で迎えてください。役場の変わりように町民の皆様は感激するはずです。

そんなことで課員が一丸となって目標に向かう姿を町民に演出できたら素

晴らしいと思います。そして出来た課から夏のボーナス査定は上がって行きます。

さて、新年度から機構改革を行い、新たな体制の中で目的を定め、それぞれが戦略的な意思をもって業務を遂行していただきたいと考えています。みんなが役割を明確にし、共通の認識の中で同じ方向に力を加えることで、組織に魂が吹き込まれます。

施策を遂行するうえでは、町民のためになるかどうか、われわれの子ども

も・孫、そしてこれから生まれてくるこどもたち、即ち明和町民のためになるかどうか、そのことが判断の基準です。

各課内で忙しい業務をこなし、町民の期待に応えることは勿論、今後は各課内、各課間でも忙しい仕事を手伝い合い、町民の期待に応え、全体の仕事の重要性と自分の役割の必要性を再認識するそんな意識改革を行っていただきたい。少なくとも隣の机の仕事は覚える。逆に言うと隣の机の仕事は盗む

くらいの気構えが必要です。民間ではお客様が来て「担当がいないので分かりません」では、2度とそのお客さんは来てくれません。会社は赤字経営になってしまいます。役場でも少なくとも担当に後から伺わせる。くらいの気遣いは必要です。

私は今後、明和町が外からの人々に好まれて「選ばれて住み継がれる明和町」を実現したいと考えています。

そのためには「人にやさしく活力があり元気で着実に任せられる職員」町

民が「確実に安心できるまち」、「住む人に誠実なまち」を作ることが必要です。そのため「大胆な役場業務改革・行財政の意識改革」を行い、企業誘致を最優先に考え財源の確保を図っていききたいと思います。

特に今後は、多くの人々が明和町に来てもらえるようなまちづくりが求められます。そのためにも、他町に負けない、人々を引きつける魅力をあらゆる面から作り出し、発信していかなければなりません。その視点をすべてのこ

とに注いでほしいと思っています。

また、多くの町民が永住できるよう企業誘致を活発化し、勤務先を確保し、町内で家庭を持ち、町内で子どもの教育、町内で食事、買い物ができる町をつくっていかねばなりません。

目標達成には、さまざまな手段があるはずです。施策を組み立てるうえでは、まずは現状と課題の検証をしっかりと行い、知恵と工夫を最大限に駆使し、あらゆる手段の中から最も効果のある方法を考えていただきたいと思っています。

そのために、町民の声にしっかり耳を傾け、そして敏感に一つ一つ問題意識をもって受け止め、あるべき明和町の将来に向けた姿を作っていかなければならないと考えています。

4月には大きな異動があります。今まで惰性で仕事をやってきたと思う人、一生懸命やってきたと思う人も、役場内の沈滞ムードを吹き飛ばす大きなチャンスです。

私は4月就任時に申し上げました。仕事は楽しくやりましょう。と、仕事

を楽しくやる秘訣をお教えします。仕事は、攻めることです。逃げていると何をするのも嫌になります。攻めて、せめて、攻め続けると仕事は面白くなります。仕事が面白くなると、いろいろな疑問が湧いてきて、より深い知識が身につきます。その積み重ねが、議会本会議で議員の質問にも慌てない度量と知識を作ります。どうか仕事は楽しくやってみてください。

当町は群馬県内でも東京に一番近い町として、国道があり、鉄道があり、



高速もあります。今後の発展のポテンシャルを多く持っています。だから多くの企業から注目を集めています。この地域からさらに魅力と価値を発信し、企業誘致を積極的に推進して、地元の人々が地元で働ける環境も整えて行きましょう。そしてやがて必ずや財政基盤もしっかりしてまいります。今、この流れを一層加速させ、私の揺るぎない信念である「住んで良かった。ずっと住み続けたい明和町の実現」のために皆様と共に全力で取り組んでまいります。

ます。皆様のお力添えをお願いいたします。

結びに、本年が職員の皆さま一人ひとり、そして当町にとっても素晴らしい飛躍の1年となりますよう心からお祈り申し上げます、少し長くなりましたが、新春のあいさつとします。

皆様、本年もよろしくお願いいたします。

平成二十八年一月四日

明和町長 富塚 基輔